

我々は知っています。忍耐は栄光を生むということ。

マタイ13:24～30、36～43 / 李正雨師

皆様、天の国はどんな所でしょうか。天の国はどう私たちの所に臨み、どのような人が天の国を迎えることができるでしょうか。先週の福音書と今日の福音書であるマタイによる13章は、この天の国についての言葉です。先週の福音書は、種をまく人のたとえについての言葉でした。天国の言葉を聞いて悟る人は実を結びますが、そうでない人はいろいろなことによって実を結べないのだという言葉でした。そしてイエス様は、今日の福音書の言葉を引き続き語られます。今日の福音書の主な言葉は、実の有無についてではありません。どんな実を結ぶかについてです。先週の福音書の言葉は、土地に焦点を当てていました。道端、石だらけの畑、茨の間、良い土地などの土地が実の有無を決めました。ところで、今日の福音書では土地だけではなく、種にも焦点が当てられていました。種によって畑で結ばれる実が変わるということです。良い種が蒔かれたら良い実を結ぶことになり、悪い種が蒔かれたら悪い実を結ぶでしょう。畑は、種によって実を結ぶしかありません。一緒に芽が出て、似ている実を結ぶのです。そして一緒に実っていくでしょう。しかし、刈り入れの時が来ると、この二つの実はまったく違う扱いを受けることになるでしょう。一つは倉に入れられ、もう一つは火によって燃やされるのです。

今日の福音書は、このような畑の状況、すなわち善と悪が共存するこの世について語っています。そして、このような世界に生きている私たちに必要なものは、忍耐であるということをお教えています。神様の御心を待って忍耐すること、これがこの世に向けたクリスチャンの姿勢だと思います。今日の福音書は、良い種が蒔かれた畑に、毒麦も蒔かれたと言います。神様のご意志、善によって創造されたこの世に、悪も蒔かれたというのです。そしてこの二つは、一緒に芽を出し、伸びて実を結びます。今日の福音書25-26節の言葉です。「人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。」

皆様、私の後ろの画面をご覧ください。左の写真は麦で、右の写真は毒麦です。麦はκριθάρι(クリサリ)と言い、毒麦はζιζάνιον(ジジャリオン)と言います。似ているでしょう。しかし、この二つは、まったく違うものです。麦は人にとって立派な糧になってくれますが、毒麦は食べた場合、嘔吐や下痢を起こすそうです。糧としてはまったく使えないもの。人間にとっては害になるもの。それが毒麦なのです。ところが、この二つは芽が出て実るまでは、区別するのが難しいそうです。実を結ばないと区別できないので、実を結ぶ時まで麦と毒麦は、一緒に伸びることになります。しかし、実を結んでからは区別することができるでしょう。それで、今日の福音書28節で、僕たちは主人に「では、行って抜き集めておきましょうか」と言います。食べてはいけないもの。百害あって一利なしなものは、抜き去ることが当たり前のことでしょう。

イエス様の時代、イエス様に従っていた人々は、この当たり前のことをイエス様が行ってくださればと思っていました。もしイエス様が直接行ってくださらないなら、自分たちがすることができるようにしてくださればと願いました。ローマと手を組んだ人々、異邦人と取引する人々、神殿と律法を使って民衆を搾取する権力者たちを自分たちが抜き去ることを願いました。イエス様を中心にして不条理なことを取り除き、新しい国を建てること。これが当時イエス様に従っていた人々の願いだったと思います。私は、礼拝後の講演会の

主題であるシオニズムについては、よく分かりませんが、たぶんユダヤ人の原理主義者もこれと同じ考え方を持っていると思います。この世の毒麦をすべて取り除くのが正しいのだという考えを、ユダヤ人の原理主義者も、当時イエス様に従っていた人々も抱いていたと思います。しかしイエス様は、このような人々の考えと全く違う話をなさいます。29節の言葉です。「主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。』」

イエス様は、神の国はこんな風に来るのではないということを教えてください。毒麦を抜くため、麦まで一緒に抜かれるかもしれない過激な方式では来ないでしょう。神の国は、神の時に私たちの所に来るでしょう。実が熟して、鎌を入れる時期になると、神の国は私たちのところに臨むのです。ですから、今日の福音書が私たちに教えてくれるのは、毒麦を抜くこと、正義を実現することに対することではありません。忍耐についてのことです。刈り入れの日が来るまで、神様の僕たちは忍耐しなければなりません。そして、この忍耐は僕だけがするものではありません。神様も時が至るまで忍耐しておられるのです。麦が抜かれないように、ご自分の民がつまづかないように、神様も忍耐しておられると思います。

だから私たちクリスチャンに求められるのは、忍耐です。神様の時を待ちながら、忍耐しなければなりません。その中で、私たちはこの世でいろいろの不条理なことを見るかもしれません。この世には麦だけでなく、毒麦も実を結んでいるからです。今日の福音書の後の物語は、まさにそのような物語です。イエス様はご自分の故郷から排斥されます。洗礼者ヨハネはヘロデによって殺されます。時々、私たちは悪人の成功を見ることになり、平安を奪われる弱者を見ることになり、無視されるメシアを見ることになるのです。それにもかかわらず、私たちがこのすべてについて忍耐するのは、刈り入れの日、神様の日が必ず私たちのところに来るからです。そして、待っている人、忍耐する人は、その日に必ず栄光の場に入ることになります。43節の言葉です。「そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。耳のある者は聞きなさい。」

悪人の成功をうらやまないでください。それは毒麦の実にすぎません。神様の御心を待ちながら、忍耐してください。皆様の忍耐は栄光を生むことになり、時が来ると、皆様は神の国で太陽のように輝くのです。神様がご自分の御心に従って忍耐し、神の時を待っている皆様の上に恵みを与えてくださいますように。私たちのところに天使を遣わし、私たちのことを導いてくださいますように、主の御名によって祈ります。アーメン